“固い石ころ”と、77歳の決意

わたしの足元に、「古い政治」って名前の“固い石ころ”が転がってる。蹴飛ばしたら痛いし、放っておけばいつまでも邪魔になる。でも、誰もが「ああ、昔からあるものだし」ってスルーしてきた。そろそろ“この石ころをどかす時”が来たと思うんです。居眠り市長より、こんな“形だけの選挙”しかやらない政治のほうが、ずっと根が深くて怖いんじゃない？

しがらみ政治に気づかないと、大切な人たちが苦しむ

自民党だの国民民主だの立憲民主だの、全部ひっくるめて“なあなあ”で話を進める。民主主義のはずなのに、肝心の政策論争すら起きない。討論会？一度も開かれずにもう終わりそうだ。思い出してほしい。“あなたの子どもが乗る高い運賃の電車”、“お年寄りが不安を抱える医療体制”。本来なら、こういう問題をしっかり議論して、市民を支えるのが政治でしょう。でも「誰が市長になっても同じやん？」なんて空気がある。実はそういう“仕方ない”という空気が、しがらみ政治をのさばらせている一番の原因なんです。ほんとは、市民が「おかしい」と声を上げれば、政治は動くはず。黙ってあきらめてしまうことこそ、“いま一番変えなくちゃいけないところ”なんです。

77歳の大沢が、どうして今さら立ち上がるのか？

「引退してのんびりしたら？」何度もそう言われたけれど、わたしはどうしてもあきらめられない。戦後の高度経済成長で、この国は豊かになった。でも同時に“談合”とか“忖度”とか、“若い人の新しい力を押しつぶす足かせ”も増やしてしまった。わたしたちの世代が作った負の部分。これを後輩たちに押しつけたくない。だからこそ、わたしが責任をもって清算したい。東葉高速鉄道の運賃だって、東京女子医大の医師不足だって、「やれない」じゃなくて「やってみる」。すべては“次の世代”がもっと自由に未来を描けるように、この街の土台をちゃんと整えたい。

このままだと4年間“停止”する。いいの？

選挙が済んだら、また同じ政治のまま4年が過ぎてしまう。結局、高い電車賃で通う人たちは困ったままだし、医療不安も解消されず、生活は少しも楽にならない。わたしはそれを見て見ぬふりなんて、もうできないと思う。あなたも「仕方ない」と言う前に、「待てよ、おかしいだろ？」とちょっとでも疑問を感じたなら、それが“政治を動かす燃料”になる。

あなたの一票で“固い石ころ”をどかそう

大沢かずはるを“緊急リリーフ”に。「談合政治にうんざり」と突きつけよう。たった4年でも、古い政治に大ダメージを与えられる。具体策を本気で実行。東葉高速鉄道の運賃問題に経営陣と本気で向き合う。東京女子医大の経営陣とも本気で話し合い、医師不足を解消するよう動く。討論会や情報公開を重視し、“裏でコソコソ決める”政治を変える。市民が本気なら、政治は変わる。「どうせ同じ」の無関心こそ、政治家を眠らせる最強の麻酔。あなたが「NO」と言えば、政治家は目を覚まさざるを得ない。

おわりに

77歳だからって、黙ってなんかいられない。わたしは“この街の未来を本気で信じている”からこそ、最後の大仕事に挑みたいと思うんです。石ころをどかす力は、わたしひとりじゃ足りない。“あなたの一票”が、固く閉ざされた政治のドアを大きく揺らしてくれるはずです。さあ、一緒に「どかそう」。その先に広がる新しい道を、次の世代へ渡すために。

ぜひ、ホームページで
「大沢かずはる」の
公約もご覧ください

こちらを
カメラで